

朝鮮近代舞踊家の舞踊と社会的評価

—崔承喜と趙澤元を中心に—

金 恩 漢

【研究目的及び方法】

本研究は朝鮮の近代舞踊史の先駆者、崔承喜と趙澤元の舞踊芸術と当時の社会に果たした役割を考察し、二人に対する社会的評価を明らかにすることを目的とする。研究方法は文献研究及び批評文や新聞、雑誌の記事の分析を中心に行う。

【時代背景と朝鮮の近代舞踊芸術】

1910年以後、朝鮮は日本の植民地とされ強制的な支配を受け始める。政治・社会的激動期中、従属的な新文化の開花期を迎える。舞踊は1926年石井漢の京城公演を機に「新しい意識を新しい技術を持って表現」¹⁾した近代芸術舞踊が紹介される。

【崔承喜と趙澤元の舞踊】

1. 崔承喜 (1911-1975) の舞踊

1926年石井漢に習い、「朝鮮古典の現代化」²⁾とオリエンタルリズムを試みた『巫女舞』(1936)『普賢菩薩』(1942)などの作品を通して世界的舞踊家となり、1946年以後、北朝鮮と東欧を中心に優れた民族的舞踊劇『半夜月城曲』(1948)らの作品を創造し、北朝鮮の芸術舞踊を創り上げた。

2. 趙澤元 (1907-1976) の舞踊

1927年から石井漢に習い、「芸術は本来民族的なものである」³⁾と自覚、〈朝鮮的情緒〉と〈舞想〉の理念を主張した『袈裟胡蝶』(1935)、『晚鐘』(1935)らの作品を創作する。1947年以後、外国での活動を通して『身老心不老』(1949)などを創作、最も朝鮮的な趙澤元舞踊の完成を見る。1960年以後は韓国舞踊の発展に尽くした。

【崔承喜と趙澤元に対する社会的評価】

1. 崔承喜に対する社会的評価

日本を代表する舞踊家として、崔承喜は川端康成らにも高く評価された。彼は「西洋舞踊方面での日本の第一人者として崔承喜」⁴⁾を上げている。「当時日本の舞踊界の沈滞期中精力的に活動した彼女に、周囲からの期待も大きかったこと」⁵⁾、「日本文芸界のルネサンス運動にも影響与えたこと」⁶⁾も認められている。また、朝鮮の近代化、芸術化に貢献し世界にその存在をアピールしたとされている。しかし一方、「彼女は伝統的な朝鮮舞踊を正しく理解しておらず、そのため伝統文化を歪めて後世に伝えた」⁷⁾という否定的な見解もあった。

2. 趙澤元に対する社会的評価

趙澤元は〈ウリ(我ら)のもの探し〉という命題に着目し、自己の世界を追求していくその精神

が高く評価された⁸⁾。また、舞踊を広く大衆にも広め、その価値を確立していた功績も認められている。呉炳年は「舞踊啓蒙のために全力を尽くした人は専ら趙澤元のみ」⁹⁾であると語った。そして、朝鮮舞踊を近代化、芸術化し、それを世界に紹介したとして評価されている¹⁰⁾。しかし、彼の作品は安逸とした浪漫主義に埋没しており時代精神が欠如しているという見解や、朝鮮伝統舞踊を深く理解しておらず、作品の哲学性にも限界がある¹¹⁾という否定的評価もあった。

二人の舞踊活動は石井漢の配慮によって続けられ、マスコミや日帝の文化政策上の影響によって限界性を抱えてはいたが、最後まで朝鮮舞踊家として行った活動のため、意義あるものとなった。

【結論】

彼ら二人の創り出した舞踊は芸術としての朝鮮舞踊の発展に大きく寄与し、その朝鮮的・民族的な芸術活動は当時の朝鮮人に民族的矜持の心を持たせたなどの点で、優れた舞踊家であったと評価されていたことがわかった。その反面、彼らの舞踊芸術活動は親日行為であり、伝統性や哲学が欠如している彼らの近代舞踊芸術は止揚されるべきであると提起する声もあった。

しかし、彼らは朝鮮民族としての意識を持って、石井漢に習った近代舞踊の技法に立って新たな朝鮮舞踊を作り上げ、朝鮮舞踊と西洋舞踊の融合を試み、今日の韓国と北朝鮮の舞踊文化に大きな痕跡を残した。そして、後代の舞踊家達によって、韓国では二人の舞踊が新舞踊の典型として、また北朝鮮では崔承喜の舞踊が正統な芸術舞踊として今日まで継承されてきた。

そのため彼らの舞踊は一つの伝統と見、朝鮮近代舞踊史上〈正史〉として扱うべきであろう。

[註] ①神澤和夫『20世紀の舞踊』未来社、1990、p.12 ②呉和真『人物に見る韓国舞踊史』芸論社、1992、p.95 ③趙澤元『袈裟胡蝶』端文堂、1973、p.452 ④川端康成「舞姫崔承喜」『文芸』1934 ⑤町田孝子『日本の舞踊』修道社、1958 ⑥呉炳年「発展期の舞踊界」『舞踊ジャーナル』Vol.6、韓国舞踊評論家会、1991.12/高嶋雄三郎「崔承喜」むくげ舎、1981 ⑦文哲民「現代舞踊論」『毎日新報』1945.6.15-16/金基斉『韓国演芸大鑑』成栄文化社、1962、p.71 ⑧趙澤元「西歐暮れ芸術一般は伝統の精神へ」『東亜日報』1938.11 ⑨呉炳年「発展期の舞踊界」『舞踊』Vol.6、韓国舞踊評論家会、1991.12 ⑩「趙澤元舞踊師の舞踊と音楽の夕べ」『東亜日報』1936.4.1 ⑪姜理文「韓国新舞踊考」『舞踊』Vol.3、韓国文化芸術振興院、1976.1、p.134/金基斉『韓国演芸大鑑』成栄文化社、1962、p.71